

宣教支援センター支援献金にご協力を

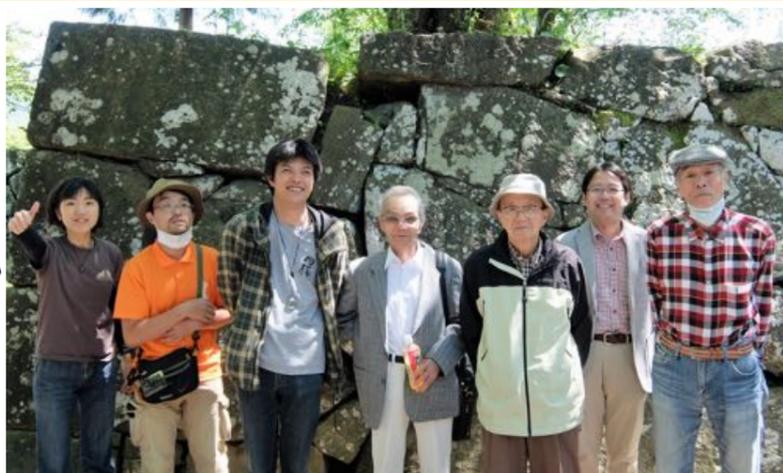
2016年度は皆様のご協力により2,100,600円の尊いささげ物をいただくことができました。北九州地方連合に連なる諸教会を変えていきたい！という皆様の切なる願いを感じます。2017年度も宣教支援センター支援献金を呼びかけてまいります。1口月額1,000円です。諸教会でバプテスマを受けた方、転入会された方がおられましたら、お声がけをよろしくお願いいたします。

今年度から北九州地方連合以外の有志の方からの支援献金を受け付けます。振込先は4頁最下段に書いてある通りです。北九州連合諸教会の方はこれまで通り、教会単位での送金をお願いいたします。

北九州・山口・大分から全国の諸教会・伝道所に向けて、新しい地域協働のかたちを提案してまいります。ご支援の程よろしくお願いいたします。(運営委員長 山田雄次)

宣教支援センター事務局のご紹介

5月から宣教支援センター事務局のスタッフとして、築城みのり姉(東八幡)が着任しました。宣教支援センターの会計担当者として、宣教支援センター支援献金の事務を担当します。今後ともよろしくお願いいたします。



一番左が築城さんです(臼杵城址にて)

編集後記

下関めぐみ幼稚園では、下関教会の旧会堂を園舎として活用しています。藤田英彦協働牧師ご夫妻(東八幡)はここで結婚式を挙げたそうです。教会おじゃましますに藤田信子姉が参加されて、懐かしそうに写真を撮っておられました。藤田英彦先生は今年で伝道・牧会生活60年の節目の年を迎えました。ご夫妻のご健康が守られますようにお祈りいたします。



次回予告

巻頭言 川端恵実牧師(芦屋)

教会おじゃまします報告 小倉教会

6月の予定

6月10日(土)教会学校研修会 (シオン山)10時

12日(月)連合女性会総会・研修会

(小倉)10時

18日(日)宣教支援センター研修会

(大分)13時

26日(月)連合牧師会・カリス会(苅田)11時

29日(木)教会おじゃまします小倉教会19時

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP: <http://bapkitaq.jimdo.com>

パスワード: kitag2015



連盟全国支援・地域協働プロジェクト

バプテスト北九州地方連合

宣教支援センターニュース21号



発行責任者: 山田雄次
発行所: 〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax: (093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日: 2017年6月7日



教会の自己診断スケールに取り組んでみて
(直方教会)

教会おじゃまします 下関教会・臼杵教会

宣教支援センター支援献金にご協力を

宣教支援センター事務局のご紹介

「教会おじゃましますin臼杵教会」

(5/18 臼杵教会)



先達たちの苦勞を憶えて

小倉キリスト教会牧師 山本 龍一郎(小倉)

1891年2月、後藤六雄氏の尽力によって現在、デパート井筒屋があるあたりに小倉講義

所が開設されました。その後、多くの宣教師が南部バプテスト連盟より派遣され1903年

に教会を組織、1920年には紺屋町に教会堂を建築、同時に湧金幼稚園を開設しました。教会での平常伝道

と幼稚園を通しての社会貢献の両輪で教会は飛躍的に教勢を伸ばすこととなります。伝道では著名な講師

を招聘しての大伝道会を定期的で開催し1923年の秋に開かれた大伝道会では三日間で1,000名以上を招集、

バプテスマ決心者48名が与えられました。その年の年末までバプテスマの執行に当たった片谷武雄牧師は

腰痛に悩まされる事態に陥ったと記録されています。その後、世界情勢は危機を迎えます。満州事変や支

那事変が起り、国内が反米思想へと高まります。伝道が最も困難な時期となり教会員の多くは召集、動員、

疎開で離散、牧師も徴用に出され、1945年、終戦を迎える直前に強制疎開を理由に、紺屋町の教会堂は軍

隊の手によって数時間で取り壊されました。沢野正幸兄は当時の辛い記憶を教会の記念誌でこのように綴っ

ています。「それは国の滅亡の近づきつつある徴でもあった」。

しかし、戦後直ぐに再び旧会員や求道者が共に集まり礼拝を再開、共に物資を持ち寄りながら教会の再

建築に意欲を燃やします。礼拝場所は旧会員の家で、バプテスマ式は西南学院の屋外水槽でという試練の

時代でした。やがて米国よりジュラルミン組立式会堂が寄贈されることになり急遽、当時の牧師や関係者

が土地購入に奔走、現在の古船場が最適地と判断され、新しい会堂での礼拝が再開されたのです。その10

年後には現在の教会堂の建築が行われ、現在に至ります。今、小倉教会は神と共に歩まれた先達の苦勞の

歴史を憶えつつ、主にある新しい明日に向かって前進し始めております。ご加禱を願います。

「涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。詩編126:5」

郵便振替 01590-7-3255 加入者名 バプテスト北九州地方連合
通信欄に「宣教支援センター支援献金」と明記してください。

教会の自己診断スケールに取り組んでみて(直方教会)

直方教会では、教会の自己診断スケール【基礎編】を、月1回のペースで8つの大項目ごとに回答していきましました。そして5月21日(日)の主日礼拝・昼食後に、齊藤主事を交えて、集計結果をもとにした学び会を開きました。

教会の自己診断スケール

その1 基礎編

制作：バプテスト北九州地方連合 宣教支援センター常任委員会
2016年11月27日発行 Ver.1

教会の自己診断スケールは、基礎編と発展編から成っています。
2016年度はぜひとも5の評価を目指していただきたい質問文だけを並べた【その1 基礎編】をお届けします。ご活用ください。

使い方

- 1) 質問文を読み、評価の欄に○印を付けてください。
回答は5段階でお願いします。
5・・・とてもそう思う
4・・・まあそう思う
3・・・どちらともいえない
2・・・あまりそう思わない
1・・・そう思わない
- 2) 項目ごとの小計を成績表に入力(記入)してください。
- 3) グラフにすると、教会の強みと弱みが見える化されます。
Excelファイルではリーダーチャートが自動表示されます。
- 4) 内容についてのご質問、改善のための提案を歓迎します。
教会単位で集約していただき、事務局までお知らせください。

発行責任者 山田雄次(宣教支援センター運営委員長)
〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2-1-40
東八幡キリスト教会内
電話 093(651)6669



●自己診断スケール集計表●
一番外側が5段階評価の5になります。

1) 直方教会の集計結果から見えてきたこと

「組織の機能と整え」「バプテスト性」「スチュワードシップ」の各項目は平均値4を超える高評価となりました。その一方でいくつかの質問については、評価にバラつきが目立つ結果となりました。例えば、次の質問には5段階評価で2をつけた方が複数名おられました。

1) 伝道・アウトリーチ

○新来者や求道者の方にハガキを出したり電話連絡したりしてコンタクトを取っていますか。

これは友愛委員会が呼びかけて、定期的に取り組んできている事柄です。それなのに低い評価をつけた方が複数名おられたのはなぜでしょうか。学び会の話合いを通して、私たちは一つのことに気付きました。それは「参加意識」の問題です。

直方教会では長期欠席の方などに週報や印刷物を発送するときに、皆に呼びかけて一筆箋を書く作業をしています。ところが、作業に参加していない方、また機械的に送ることに疑問を感じている方がおられて、実態よりも低い評価をつけたのでした。

教会の奉仕はマニュアルに従って粛々と行うというよりも、異なる考えの人びとを巻き込みながら立て上げていくものであると思います。多くの教会では「あなたの一人ではありません。あなたのことを覚えています」というメッセージを込めて、週報発送の作業をなさっていることでしょうか。参加できていない方、批判的な方をどのように巻き込んでいくか。課題に気付いた直方教会の皆さんは、「参加意識」を高めていくための方法を具体的に考え始めています。

2) 一回限りで終わりにしないために

教会の自己診断スケール【基礎編】を用いた研修会は6月18日(日)に大分教会で予定しているほか、シオン山教会でも6月に教会員一人一人がスケールの回答に取り組むと伺っています。教会形成の自己評価に用いてくださる教会が増えてきていることをうれしく思います。

大事なことは一回限りで終わりにしないことです。1年後にもう一度取り組んでみることで、変化を見ることが出来ます。自己評価→改善→計画→実行のサイクルを、各個教会の中に根付かせていくこと。それが宣教支援センターが教会の自己診断スケールを開発した一番の理由なのです。

第16回

下関教会を訪問しました

4月27日(木)は下関教会におじゃましました。教会堂前に満開になったつつじが私たちを迎えてくれました。11教会から53名の参加がありました。うち下関教会の皆さんが16名もおられたことは大きな励みとなりました。

プログラムは米田具視兄の詩吟から始まりました。奨励の中で泉選也牧師は、下関教会が「キリストの体として生きる」という年間主題を持ち続けていることについて、エフェソの信徒への手紙3:17を引用しながら、十字架上のキリストとの関係性を覚え続けていきたいからと説き明かしてくださいました。各グループに分かれてからの話し合いでは、下関めぐみ幼稚園との協働について、そして力を入れて取り組んでいる教会学校、小羊会の年間活動についての質問が多く出されていました。



解散後に希望者で下関めぐみ幼稚園の見学をさせていただきました。ヴォーリズ設計の旧福音書店は2歳児クラスの園舎として現役で用いられています。下関教会の旧会堂も健在でした。長時間にわたってお世話いただいた下関教会の皆様方、本当にありがとうございました。



第17回

臼杵教会を訪問しました

5月18日(木)は地方連合内で最南端の臼杵教会におじゃましました。北九州から高速道路を走ること2時間、JR日豊本線上臼杵駅近くの高台に、臼杵教会は建っています。当日は11教会から52名の出席がありました。平日にもかかわらず臼杵教会に連なる10名の皆さんが温かく迎えてくださいました。

松永正俊牧師は1996年に協力牧師として臼杵教会に赴任され、2005年から牧師として仕えておられます。ライフワークとして豊後のキリシタン史研究に取り組んでいて、参加者全員に『大分キリシタンガイドブック臼杵編』を配っていただきました。松永牧師は奨励において、第一コリント1:18のみ言葉から、十字架の言葉が救いの言葉に変えられていくことを示しながら、視点を変えることの大切さを語られました。



臼杵教会では宣教70周年を迎える2021年に、会堂・牧師館を改築することを、祈りの課題としておられます。神社仏閣の多い臼杵の地であって、教会が主催するキリシタン遺跡めぐりには未信者の方が参加して下さっているとのこと。教会につながる方が起こされるように、これからも祈りを合わせていきたいと思っています。



伝道委員会と宣教支援センターの共同企画
教会におじゃまします